

2023 年度第 1 四半期決算説明会（2023 年 7 月 28 日開催）

QA 要旨

Q1. 通期の見通しについて、今回 4 月発表の見通しから据え置きとのことですが、1Q の進捗がかなり良かったのに見直しをしないのはなぜでしょうか。1Q の実績は貴社としては想定線だったのででしょうか。

A1. 前回の決算説明会でも申し上げましたが、いわゆる特需の売上が前年度 4Q から今年度の上期にかけて拡大する見通しで、1Q の実績も為替以外はその想定に沿った形で推移しました。全体として 2Q からの前倒しの出荷も若干ありましたが、年間で見ると現時点では想定線で推移すると見えています。

Q2. 商談獲得金額、残高については、年間（通期決算発表時）でしか定量的に開示しない方針だと理解しています。前回の決算説明会では前年度の商談獲得金額について、自動車向けが 4 割、アメリカ向け 4 割との説明でしたが、この 1Q の進捗は、前年度の傾向から変化は見られたのでしょうか。

A2. アメリカで自動車分野向けが堅調という状況に変化はありません。それ以外の分野向けも、引合いをいただいておりますので、商談獲得に関しては想定通り進捗しています。

Q3. 特需は中国のデータセンター・ネットワーク向けとのことですが、中国向け売上の特需以外の部分は、比較的安定したものと考えていいのでしょうか。特需は、3Q 以降はゼロになってしまうのでしょうか。

A3. 特需以外の部分は安定的に推移すると見ております。特需については、特にインフラ立上げということで、前年度 4Q 及び今年度前半に、当初見込んでいた商談獲得金額に上乗せでデマンドが追加になった分を特需と呼んでいます。特需の分は今年度上期でなくなると見ていますが、特需以外のベースの部分は継続すると見ています

Q4. 有価証券報告書には商談獲得残高以外に受注高及び受注残高の数字も開示されていますが、この数字は四半期毎に開示されるのでしょうか。受注残高が 3 月末と比較してどう変化しているのでしょうか。

A4. 受注高、受注残高を四半期ベースで開示することは考えておりません。基本的には、すでに今年度の分の受注はいただいている状況です。現在は来年度（24 年度）の分の受注をいただいています。

Q5. 自動車向けの NRE 売上が増えている説明でしたが、それは御社が戦略的に増やそうとしているからなのか、需要が旺盛なのか、その背景を教えてください。

A5. 特にアメリカでの自動車分野向けの NRE が増えています。アメリカの自動車メーカーは、自動運転や ADAS 機能等に関して、独自のサービスや仕様を実現して差別化を図るため、標準品ではなく独自の（カスタム）SoC を開発するニーズが強くなっています。独自の SoC を開発するためには、お客様と設計の上流から一緒になって開発を進めていくという当社のビジネスモデルが、自動車メーカーには適しているというところがあり、商談獲得の拡大につながっていると考えています。

Q6. プロセスノード別の NRE 売上について、1Q は 5-7nm の比率が増えています。増えているのは 7nm の製品でしょうか、それとも 5nm の製品でしょうか。また、3nm 製品の開発や商談はどのような状況でしょうか。

A6. 比率が増えている部分は 5nm の製品が中心です。3nm の製品については、お客様の関心も非常に強く、すでに引き合いもいただいている状況です。最先端製品のニーズが 3nm 以下にも移行しつつあると感じています。

Q7. 営業利益の増益要因として、プロダクトミックスの説明がありましたが、具体的にどんな要因で利益が改善しているのか、またこの持続性についてどう考えれば良いのか教えてください。

A7. 特に、先端製品で歩留まりが改善し、個別採算が良くなった製品がでてきており、そういう製品の売上が増えることでミックス改善につながっています。この傾向は年度を通じて継続すると考えています。

Q8. 1Q の地域別の NRE 売上について、“その他”の比率が大きく増えています。その要因を教えてください。

A8. 四半期の NRE 売上なので、年間でみると均されると思いますが、1Q に“その他”地域の NRE の比率が増えたのは、欧州向けのお客様の NRE 売上が計上されたことによります。地域的にはバランス良くビジネスを取ることに努めていますが、1Q は欧州向けで一定の NRE 収入があったということで、その他地域の比率が増えています。NRE 売上は開発成果物の検取時期で変動するので、トレンド（移動平均）で見いただければと思います。

Q9. 現在、生成 AI が世の中で注目を集めています。御社は北米のデータセンター向けのビジネス拡大を課題として挙げていますが、現状どのような取組みをされているのでしょうか。

A9. 先端技術を用いる SoC は演算能力の拡大も目的としています。AI 技術の進展が広く我々のビジネスの拡大に繋がると 생각합니다。私どもの得意とする自動車分野でも AI の活用が自動運転などの先端技術を用いる SoC の市場の拡大につながっていると思います。

北米のデータセンター市場でのビジネスの拡大については、話題の生成 AI のための市場拡大を事業の成長に繋ぐことができるように、開発体制の強化など「第二変革」を通じて進めて参ります。

以上